

2010

Annual Report



フィリピン共和国 カオハガン島



Japan Dental Mission
NPO法人ジャパン デンタル ミッション



Contents

代表理事挨拶	1
活動地域紹介	2
海外活動報告	4
6月ヴァヌアツ共和国	4
7月ヴァヌアツ共和国	5
11月フィリピン共和国	9
2月フィリピン共和国	13
海外活動参加者の声	17
国際交流	27
八尾市立南山本小学校とレナケル小学校との国際交流	27
フィリピン・カオハガン島からの研修生を向かえて	33
八尾市立特別支援学校への見学	34
寄付活動	35
国内活動	37
学術報告	38
ジャパン デンタル ミッションについて	39
協力者名簿	40
東日本大震災に対する義援金についての御願い	41
2011年度海外活動予定	42
理事紹介	43

代表理事挨拶

この度、東日本大震災という未曾有の規模の地震により、被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

1983年から始まったJDMの活動は、今年で28年目を迎えます。顧みますと、当初の活動は抜歯、充填、義歯(入れ歯)の作製等々、主に歯科治療を中心とした対処的なものでした。その後、予防措置の重要性という観点に立ち、活動の一環として島の子供達を対象にした学校検診や住民へのTBI(ブラッシング指導)等、オーラルヘルスケアや、母子の健康管理、口腔衛生啓蒙運動等にその活動域を拡げて参りました。

開発途上国で人々の口腔衛生を維持増進させ、歯科疾患の進行を阻止し適正な予防処置を施すことは、重要な歯科保健活動となります。現地では歯科治療のニーズは年々高くなってきていますが、残念ながら予防への関心は未だ未だ低い傾向にあると言えます。地域全体の健康づくりを向上させるために、現地の人材育成を奨めることはもとより、住民の意識改革が計られることが何より大切であると考えます。

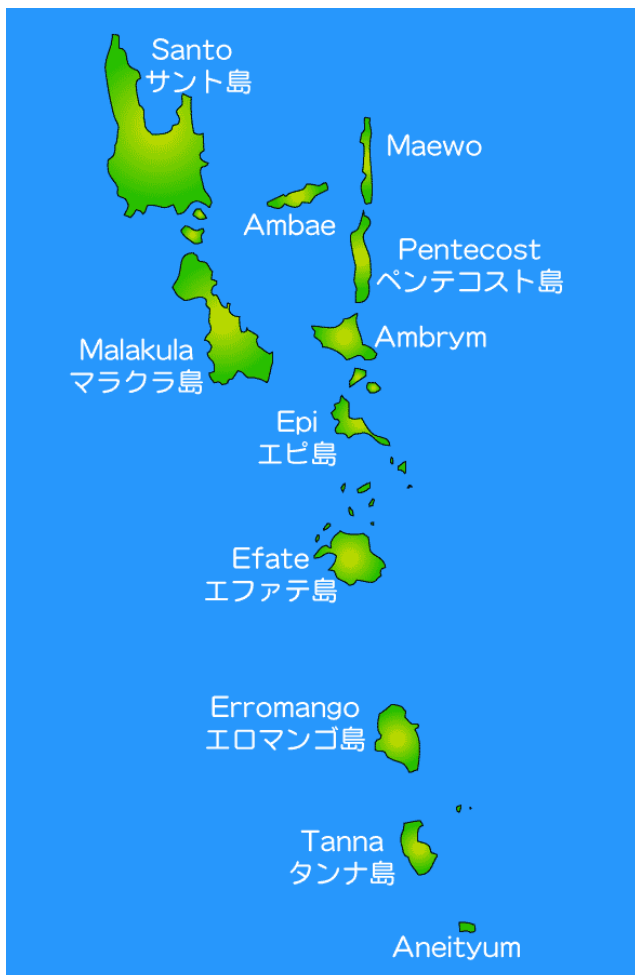
これらの目標は短期で達成されるものではありませんが、様々な交流を介して、住民との信頼関係を発展させていくことで、その目標に一步步近づいていくことができると確信しています。

JDMが将来的にどのような活動に取り組むことができるかについて、ヴァヌアツ並びにフィリピン両政府と調整を重ねながら、今後も歯科地域保健システムの更なる発展に貢献していきたいと願っています。

代表理事 沢田 宗久



活動地域紹介



ヴァヌアツ共和国



紹介: 83の島から成り立つ
人口: 約23万人
首都: ポートヴィラ (エファテ島)
言語: ビシュラマ語、英語、仏語
宗教: ほとんどがキリスト教
寿命: 不明
生産物: コプラ (ヤシ)、牛肉
活動地: マレクラ島、タンナ島

フィリピン共和国



紹介：7,109の島から成り立つ

人 口：約8,857万人

カオハガン島の人口は約450名

首都：マニラ（ルソン島）

言語：フィリピン語、英語、ビサヤ語

宗 教：ほとんどがキリスト教

壽命：男65歲、女70歲（平均）

生産物：バナナ

活動地：カオハガン島（セブ州）



海外活動報告



ヴァヌアツ共和国
Republic of Vanuatu
タンナ島・マレクラ島

6月ヴァヌアツ共和国

場所 ヴァヌアツ共和国 マレクラ島・サント島

期間 2010 年 6 月 20 日～6 月 26 日

参加メンバー (写真右から)

吉竹 弘行(D) 國和マサ子(J) 緒方 千秋(H) 廣井 千寿(H)

D:歯科医師 H:歯科衛生士 J:JICA



ヴァヌアツでの歯科知識に関する啓発講義

吉竹 弘行

本年(2010 年)もヴァヌアツ保健省の依頼をうけ、例年と同じく歯科、特に口腔衛生に関する講義を行ってきました。



過去2回はポートヴィラで開催していましたが、今年はエスプリットサント島で開催して欲しいとの要望があり、2010 年 6 月 22 日にエスプリットサント島のルーガンビルで実施しました。

講義前日の6月21日の夕方に現地入りで翌日に講義とい

う、非常にタイトなスケジュールでしたが、予め協力をお願いしていた、JICA の國和マサ子さんが一足早く現地に入り、会場のチェックをして下さったので、非常に助かりました。現地では「コンピューターとスクリーンを使って講義をする」と言っても、どのような物が必要か中々理解してもらえず、スクリーンがなかったり、延長コードがなかったり等ですから、毎年色々工夫を凝らして行っています。しかし今年はマサ子さんのお陰で翌日から予想以上にスムーズに事が運びました。

当日は午前、午後の2回に分けて講義しました。午前は学校関係者向けに、午後は医師を含む病院関係者向けにそれぞれ理解して頂き易いように、表現等を変えて行ってきました。参加者はそれぞれ40名程度でした。内容は例年通り、「何故歯を磨く必要があるのか」という事を、基礎医学的な話から説明し、その後、実際に歯ブラシを手に取ってもらい、その正しい使用方法をデモを交えた実習で学んでもらう、という形式です。小生とあと2名の歯科衛生士でおこないますが、色々質問もあり、時間が押し気味の感があります。特に今年は午前中の講義時に質問が多く、こちらにもそれに答えるべく熱弁をふるっていると、話がとんでもない方向に進んだりであつという間に時間が過ぎました。このような講義を今後も出来るだけ実践して行きたいと思っていますが、この活動は毎回快く協力して下さい、JICA の方々のお手伝いなくては成り立ちません。特に通訳を始め、あらゆるお手伝いを快くして下さい、國和マサ子さんにこの場を借りてお礼申し上げたいと思います。



7月ヴァヌアツ共和国

場所 ヴァヌアツ共和国 タンナ島

期間 2010 年 7 月 10 日～7 月 18 日

参加メンバー（上段左から）

今西 敦之(R) 笠井 実(R) 上崎 秀美(D) 小林 成禎(R)
倉橋 朋子(H) 三木 佳子(D) 関根 淳(D)

（下段左から）

川田 修弘(V) 沢田 宗久(D) 山本 喜代(V) 原 順子(V)
大西 富子(H)

D: 歯科医師 H: 歯科衛生士 V: ボランティア R: ロータークラブ



活動内容

7月11日（日曜日）

21:45 頃にポートヴィラに到着。大阪出発組と東京出発組とが合流し、夕食後 22:00 よりミーティング。

今回は八尾ロータークラブからの視察団が同行し、Dr 沢田、VO 川田と共に別行動する。各小学校には歯科検診、歯磨き指導だけでなく、八尾ロータークラブと大阪船場ロータークラブ、JDM のコラボレーションでノート、シャープペン、消ゴム、下じき、各4000個、サッカーボール、歯ブラシが寄付される予定。

7月12日（月曜日）



7:00 起床、朝食。8:30 頃荷物をまとめ、タンナ島行きメンバーの6人は空港へ出発。空港にて今回も一緒に行動してくれる、ヴァヌアツ共和国保険省のトメルと合流した。

11:30 頃タンナ島、ホワイトグラス空港に到着し、トラックにて移動。途中、宿泊準備班、病院診療 準備班に別れ、全員手分けして、それぞれの準備にとりかかった。

ラナケル病院にて保管していた JDM の診療機器が入ったコンテナは、元々の倉庫から移動されていたが、冷蔵庫等無くなっている物は無かった。病院での準備は、コンテナから1年間眠っていた診療 器具を取り出し、ひとつずつ洗浄し、器械の動作確認、セッティングなどを行うため、3時間以上時間がかかった。準備しながらも1人だけ診察した。宿泊先は去年と同じオーシャンビューゲストハウスだったため、夜は停電したが、準備は順調だった。食料は米、水等を購入した。今回は人数が少ないので皆で協力し準備をした。ポートヴィラに残ったメンバーはヴァヌアツ政府と午前9時から寄付物品の贈呈式を行った。



保険省の大臣や JICA の所長、マスメディアも参加し、式典が行われた。その後、今回 JICA の所長が交代したため、新しい鈴木所長を表敬訪問し、これまでの JDM との協力 体制について感謝の意を述べ、これからの協力体制についても確認し合った。 午後は空港と港に向かい、ロータークラブと JDM からの物品の輸送について確認した。



7月13日（火曜日）

Dr 上崎、Dr 関根、DH 大西、DH 倉橋、4名は 9:00 よりラナケル病院に向かい、診療を開始した。

DH2 名は検診にロカタイ小学校に向かい、131 名検診した。その後、サッカーボール、歯ブラシ等を寄付し、歯磨き指導を行った。Dr2 名は正午頃診療を切り上げた。途中、前日ポートヴィラで別れたメンバーと合流し、お昼はメンバー全員集合し楽しく昼食を食べた。午後からは Dr 上崎、Dr 関根、DH 大西、DH 倉橋は診療に戻った。



Dr 三木、Dr 沢田、Vo 小林、Vo 今西、Vo 笹井、Vo 川田はタンナ島の教育省事務所を訪問し、JDM の活動について話し合った。その後 ラナケル小学校にて検診し、文化交流プログラムである八尾市立南山本小学校との絵画の交換やロータリークラブからの物品の寄贈を行った。Vo 原、Vo 山本はゲストハウスに残り、食料の買出しや食事の準備を担当した。



7月14日（水曜日）

ロータリーチームと検診チーム(Dr 三木、Dr 沢田、Vo 小林、Vo 今西、Vo 笹井、Vo 川田、DH 大西、DH 倉橋)は7時にゲストホームを出発し、イーストエリアを中心にディバイン 130 名、ペトロス 100 名、ヤヌマケル 130 名に物資の寄付や検診を行った。ペトロス、ヤヌマケルにはバレーボールのネットを寄付した。



今回は初めて訪問する小学校が 2 校含まれ大いに歓迎された。イーストエリアは以前に比べ、生活が良くなった反面、口腔内の環境は悪化していた。

治療チームは9時から診療を開始した。以前に比べ、抜歯の患者が多かった。患者の中に学校の校長で、ラジオ番組を持っているという方がおり、JDM の診療活動をラジオで宣伝してくれた。生活面では米が手に入らなくなったが、野菜類が手に入り、バランスの良いおいしい食事が出来た。

本日はヤスール火山の見学に行くことが出来た。自分達の生死は紙一重で、自然に生かされているということを実感した。

この日は運動会や球技大会が各所で行われ、子供達はそちらに集中していた。

7 月 1 5 日(木曜日)

ロータリーチーム、検診チームは8時半頃出発し、イサングル 320 名、ロカタイ 250 名、ラムカイ 150 名、に物資の寄付を行った。ラムカイではロータリーチームを空港に送りに行く間に検診や TBI を行なった。ロータリーチームは明日から別の島などを視察する。



本日、病院チームは 37 名診療。前日ラジオ局で JDM が来ている事を紹介したため沢山患者が来た。アメリカの Peace Corp ボランティアの方から野菜を頂いた。島の野菜はオーガニックでおいしい。調理してくれるボランティアの腕も最高だ。

7 月 1 6 日(金曜日)

朝、ロータリーチームは、ビラを出発し、ノルスープ空港に到着へ向かった。空港では JICA メンバーと Dr 沢田と親交のあるウリピ島職業訓練所、所長のジョンカルキのご子息に会った。その後、ノルスープ病院に行き、マレクラ島教育省のリーダー出席のもと、物品の寄付を行い、食事会を行った。

ノルスープでは、ラカトロ小学校 170 名+130 名欠席者への寄付も行なった。本日のスケジュールはタイトで、すぐにウリピ島に移動した。ウリピ島ではジョンカルキに会い、なんと大臣訪問クラスのカスタムダンスで歓迎を受けた。

その後ウリピ小学校 63 名に物品の寄付を行った。寄付の後は、八尾ロータリーが寄付した図書館を訪問した。図書館訪問の後、職業訓練所に 700 名分の物品を寄付し、そこでは郷土料理のラブラブ料理をいただいた。ノルスープに戻ると、ノルスープ小学校に行き、学生は帰っていたが、物品の寄付(200 名)だけ行なった。その後、ミスアポイントメントが有り、中学生 200 名が待っていたので挨拶と写真撮影、寄付を行い、学校の校長に軽食と記念品を頂いた。

タンナに残った検診チーム(Dr 上崎、DH 大西、トメル)、診療チーム(Dr 三木、Dr 関根、DH 倉橋、Vo 山本)は 8 時 30 分に病院に行き、病院にてそれぞれの活動に分かれた。

検診チームはユーミット小学校 220 名に物資の寄付を行ない、140 名の検診を行なった(残りは休み)。



ツフ小学校にも訪れたが、金曜日は午後から学校が休みのため、物資の寄付だけ行なった。病院チームは午前の診療後、ラナケル小学校を訪問し、八尾市立南山本小学校との国際交流プログラムである絵画の受け取りに行った。午後ラジオの効果か患者が途切れる事は無かった。最終日の夕食は JICA の青年協力隊 2 名と共に食事会をした。

7 月 17 日(土曜日)

午前から病院、宿舎の片付けをした。来年の診療に備え、物資の確認を入念に行なった。マンパワーが少なかったが、順調に撤収し、お昼は皆でホワイトグラスオーシャンリゾートにて昼食を食べ、労をねぎらった。夕方ポートヴィラへ戻り、ロータリーチームと合流した。夕食は中華料理を皆でおいしくいただいた。その後、最後のミーティングを行い、各自解散した。

7 月 18 日(日曜日)

ポートヴィラ出発、それぞれの経路で帰国の途につく。家に帰るまでが JDM。今回は皆怪我や病気をする事なく順調に帰国した。

総括 リーダー報告

今回、12 名うち 3 名の八尾ロータリーの方々とのコラボレーションでした。沢田先生はじめ 5 名は、ヴァヌアツ政府との交渉、式典、マレクラ島視察など別行動となり

7 名でのタンナ島活動、さらに診療班、検診班、食事班に分担したので少数精鋭の活動になりました。今年、初日ラナケル常置のコンテナの搬出に多少手間取ったものの、昨年のような混乱もなく進行し、診療内容も抜歯、充填よりも、クリーニングや予防処置の希望が徐々に増えてきて非常に喜ばしいことでした。移動時のトラックの手配などもなんとなく昨年とは違い、お願いとか、約束ということが守られているような気がしました。また、活動中に JICA の方々とも交流がもて、島民の生活感情なども聞くことができ有意義でした。ラナケル病院では、継続参加のメンバーの住民、子供たちとの交流により倉庫、診療室のカギの問題が解決することに驚かされ、さすがヴァヌアツと実感しました。気候は、今回予想外に寒く驚きましたが、メンバーは、用意周到全員フリース、ダウン持参でした。日本とはまた違った朝晩の寒暖差、南半球の冬を体感しました。

往路復路はオークランド経由で比較的楽に行かせていた

だき、特に帰りはトランジットの合間にオークランドの街並みを満喫でき、メンバー全員帰国前の疲労回復と心身のリセットができたのではないのでしょうか。

最後になりましたが、笑顔をくれた現地の人々、国内で支えてくれたメンバー、活動チームで支えてくれたメンバーに感謝しつつ、リーダー報告を終えたいと思います。

上崎秀美 See you next year!!

データ

	7/12	7/13	7/14	7/15	7/16
CR 充填	0 本	7 本	3 本	0 本	2 本
セメント充填	0 本	7 本	8 本	47 本	19 本
抜歯	0 本	11 本	3 本	20 本	4 本
デンチャー調整	0 人	1 人	0 人	1 人	0 人
TBI	0 人	2 人	3 人	4 人	2 人
SC	0 人	1 人	3 人	7 人	11 人
検診	1 人	4 人	1 人	2 人	3 人
患者数	1 人	22 人	11 人	37 人	21 人





フィリピン共和国 Republic of the Philippines カオハガン島

11月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2010 年11 月19 日～11 月24 日

参加メンバー (上段左から)

佐々木千尋(V) 垣内万智子(H) 柿野聡子(D) 伊藤晴夫(V)
森千代美 (H)

(下段左から)

栗原直士(D) 沢田宗久(D) 大西富子(H) 合田健志(D)
上崎秀美(D)

D:歯科医師 H:歯科衛生士 A:助手 V:ボランティア



活動内容

11月19日(金曜日)

19:00頃に関空から出発組7名が先にカオハガン島に到着。成田発からのヴァージニアを含む4名を待ちミーティング…予定であったが、ボランティアの伊藤氏が船から着岸時に左ヒザを捻挫してしまい緊急事態に、歩くこともままならず、島のタクシー(リヤカー)にて崎山ハウスに到着。応急処置後ミーティング。

今回は2月に持ち帰った義歯を作成し(DT河内氏が日本での診療の合間にすべての義歯を作成してくださった)、セットする予定と次回(来年2月)義歯セット予定の噛み合わせを確認する作業があり、Dr 5名という恵まれたメンバー構成ではあるが、多忙となることが予想される。しかも日曜日に教会で大規模なミサがあり、今回の診療場所がバラングイホール(島の公民館のような建物)になると

知らされていた為、場所の確認と電源、機械の配置、診療の流れを確認のために全員でバラングイホール内を見学する。このホールは今年完成したばかりの2階建ての美しいホールで、歯科診療のためにこの新しいホールを使わせて頂いたことに、カオハガン村長と崎山氏に感謝いたします。初日の診療は、沢山の患者さんが待っていることが予想されるため、具体的な診療体制をリーダーのDr 上崎からの指示に従う。



バラングイホール

11月20日(土曜日)

8時からの朝食後、9時から診療に入る、ホールの前では沢山の患者さんが待っていた。義歯の装着5名と次回の義歯作成の為の噛み合わせ調整作業10名の患者にDr 3名がフル回転。Dr 沢田は 予診担当で、列をなす患者さんの主訴を聞き、診断と振り分け。DH 1名と島の保健師MS.エマは記録と受付を担当。虫歯治療と予防処置、診療補助に4名が次々に来る患者さんをこなしていった。義歯装着の多くの希望者はカオハガン以外の島の住人が多く、パガン11名、パンダラン30名、カオハガン9名であった。初日から患者総数62名であった。

伊藤氏は島のスタッフと一緒にセブ島の病院に診察に行き、ヒザの骨には異常は無かったものの、軟骨部や筋を痛めており、ヒザから足の甲まで腫れ、安静にしなければならない状態であった。島民に作って頂いた松葉杖を頼りに何とかトイレには行ける状態。DH 1名と島の保健師でもあるヴァージニアは診療の合間に家庭訪問に行く。今回初めての試みで、3歳～5歳の幼児のいる家庭に訪問し、具体的に母親のヒザで赤染めをして寝かせ磨きをしてもらい、母

親指導を行った。ビサヤ語の言葉の壁はヴァージニアが通訳、指導を行った。ヴァージニアが愛娘ショハナちゃんを自らヒザに乗せてデモンストレーションをしてくれたお蔭で沢山の母親達が集まって来てくれて、3軒の家庭を訪問することができた。



11月21日（土曜日）

教会でミサがあり、いろんな島から沢山の島民達が集まっていた。この日はさすがにカハガンの患者数が25名と多かった。その他、パガソ11名、サタサ6名、パンダノ23名。患者総数65名。Voの佐々木千尋さんは慣れない仕事にもかかわらず、いつも笑顔で診療補助に携わってくれた。彼女がいてくれると診療所が明るくなり、彼女の声を聞くと疲れていても笑顔になれる。ありがとう。バランガイホールでの診療の流れもだいぶ慣れたが、機械のトラブルや電源のパワー不足で機械が止まる。

そんな時はマイケルがすぐに機転をきかして修理してくれた。彼が居なかつたらこんなにもスムーズに診療が進まなかったと思う。トッペルやアグスチーヌも今まで同様、診療補助を何も言わなくても的確にアシストしてくれる。JDMの今までの歴史を感じられる。



11月22日（月曜日）

9時からDr 沢田、Dr 栗原、DH森、DH垣内の4名は小学校で検診とドネーションを行った。ドネーションの内容は、エンピツ、画用紙、絵の具、歯ブラシ。今回、その贈呈式にカオハガンハウスに滞在している神奈川県出身の小倉香織さんという24歳の絵の先生も加わって下さった。彼女は約8ヶ月カハガンに滞在していて、小学校の子供たちに絵を教えていた。彼女が子ども達に絵画を教えたことによって、今回の文化交流の絵は以前とは比べ物にならないくらい素晴らしい作品となった。以前の絵をご存知の方はこの絵を見たら大抵は驚くだろう。テーマは『風』



残りのスタッフはホールで学校検診を受けて治療をしなければいけない子供たちが来るのを待ったが、ホールの前ではすでに島民達が早朝より並んでいるため、沢山の患者でごったがえした状態であった。この日の総患者数は87名と最高の数であった。島の種類も増えて、カカガン15名、パンダノン8名、ヒルトガン5名、パガン6名、ガブルアン1名、カカガン小学生52名。ヴァージニアとDH大西は昨日に引き続き家庭訪問に出る。午後から5件の家を回る。

午後2時からDr 沢田、崎山氏、カカガン村長の3名でラプラプ市の市長に表敬訪問に出た。PAZ-RADASA市長は女性市長で前回の市長の奥様で、今年就任されて初めてDr 沢田と会談した。JDMの活動に対する理解と薬品・機材などの税関に関する陳情に何うのが目的であった。



11月23日（火曜日）

9時より通常通り診療のかたわら、在庫確認をしながら片付けていく。午後3時から島民大運動会を開催予定なので、朝から森、佐々木、伊藤の3名は運動会準備に入る。

今回は麻酔薬やアイオノジット、ガーゼなどが底をついた。次回は気を付けて持っていく必要がある。

午前は約5名の患者数。来年2月の入れ歯予約数は14名となった。



昼食後リクリエーション。船で沖へ出てシュノーケリング、マッサージ、買い物など、それぞれが自由に時間を楽しんだ。

島民大運動会では、パン食い競争、アメ食い競争、玉入れ、チーム対抗リレー、綱引き、と面白さ満載の運動会で

あった。準備担当の方々ご苦労様でした。本来なら先頭に立って準備して下さるはずの伊藤氏が、ずっと椅子に座って見学している姿(ご本人が一番悔しい思いでしょう…)が痛々しかった。



11月24日(水曜日)

成田出発組は早朝3時半起床4時出発、関空組は5時15分出発。今回、昼間は良い天気恵まれ、夜に雨が降るパターンが多かった。例年になく蚊の発生が多く感じられたし、そこらじゅう刺された。それぞれが思い出いっぱいに帰路についた。『家に帰るまでがJDM』である。

リーダー報告

11月19日～24日 歯科医師5名、衛生士3名、ボランティア2名の10名参加で行ってまいりました。JDMの活動でいつも感じていることですが、毎年新たな驚きと発見があります。なにもなかった島にも少しずつ立派な家が建ち、外観が変わってきていること、あの小さな島に自転車数が数台あったことなど、こんな変化のように口腔ケアについても考え方が少しずつ変化していったらなあと願います。

また、4月より日本から帰国したカオハガンハウスのマネージャー、ジュディスは日本語がわかるだけでなく考え方で理解しているようで非常に安心でした。今回よりここ数年安定して慣れていた教会を離れて、新設のバランガイホールでの診療でした。トイレ、水道付きですが、小さな部屋に分かれているため、機材の配置と人の動線がかみ合わず、戸惑いました。これは今後の検討課題でしょう。診療のほうも抜歯から充填へ傾向が変わっていき、また今回からの試みとして就学前の家庭に訪問し、一歩だけでも対処療法から進行抑制、予防、さらに食生活指導まで近づけたかなと思える一面もありました。恒例の運動会は、5種目最後の綱引きまでシャイな島民たちもエキサイトし、大人も子供も参加してくれて大いに盛り上がりました。

最後に、いつもながら全員のサポートに支えられ無事帰国できたことを感謝いたします。そして、今回上陸直前に怪我をされた方がいましたが、全員協力して支えたこと、島民のサポートもあったこと、普段使うことのない海外旅行傷害保険の大切さなど実感しました。一度みなさんも保険内容を再確認してください。

ではまた、上崎秀美

データ

処置内容	11/20	11/21	11/22	11/23	合計
抜歯	86本	95本	67本	7本	251本
CR充填	16本	26本	22本	3本	67本
セメント充填	11本	30本	185本	10本	236本
サリド	0人	0人	3人	0人	3人
根治	0人	0人	1人	0人	1人
SC	0人	7人	9人	4人	20人
義歯調整	19人	4人	3人	0人	26人
義歯セット	5人	0人	0人	0人	5人
その他 検診	2人	6人	5人	0人	13人
患者数	50人	65人	87人	6人	208人

島の名前	11/20	11/21	11/22	11/23	合計
カハガン	9人	25人	15人	6人	55人
カハガンスクール	0人	0人	52人	0人	52人
バガンツ	11人	11人	6人	0人	28人
カブルツ	0人	0人	1人	0人	1人
バングル	30人	23人	8人	0人	61人
サンタラ	0人	6人	0人	0人	6人
ヒルトガン	0人	0人	5人	0人	5人
総患者数	50人	65人	87人	6人	208人

今回のカハガン小学校のDMF歯率は29.9%であった。総歯数の内のDMF歯数が始めて30%を切った。全体を検診されたDr 沢田の意見によると学校検診で明らかに予防の効果が出ていて、深刻なC4の第一大臼歯の数が減っているとコメントされていた。6年前に比べ小学生の治療の中心が抜歯ではなく、予防充填の数が上回っているのが嬉しい。

2月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2011年2月8日～2月13日

参加メンバー

(上段左から)

橋口 敦(T) 大西 富子(H) 笹川 琴絵(H) 中根 綾子(D)

松浦 系亮(T) 河内 光明(T) 橋本はるか(H) 金田直人(D)

田岡 杏子(D) 上崎 秀美(D)

(中段左から)

久保田 敬子(H) 中原みどり(H) 栗生 茉莉恵(D)

黒飛 一志(D)

(下段左から)

川畑 小夜(H) 山崎 亜希子(H) 清水 絢子(D)



活動内容

2月8日(火曜日) 晴れ

19時30分頃、関空出発の大阪組11名が引き潮の中、カオハガン島に到着。周りにはもう暗くなってからでした！東京組を待っている間、大阪組は診療現場となる、バランガイホールの下見に向かい、水道・コンセント・電気・機材の確認を行い、翌日からの診療の動きを想像しながらの下見となりました。河内リーダーは成田出発の東京組をセブ空港で待ち、東京組と合流後、6名でカオハガン島に到着。総勢17名の大所帯となった今回の活動メンバーがカオハガンハウスに集まったのは、かなり深夜に近づいた頃でした。全員が到着し、食事を済ませ、自己紹介を兼ねた、現地ミーティングが始まり、翌日からの活動予定と打ち合わせを行った。

今回は前回からの依頼である義歯 SET が28床(14名分)もあり、診療1日目のチェックアップは義歯予約(set)患者の見当がついてからのスタートにする事となった。

2月9日(水曜日) 晴れ！

南国らしい曇り空の朝を迎え、今日が暑くなる事が予測された。大寒を迎える2月の日本を離れ、診療初日となる今日の天気にも備え、バランガイホールには入り口前にテントが張られた。

朝食時に軽いミーティングを行い、いざ初日！！

まずは義歯 Set の大波が来ます！Dr もDT も緊張の面持ちです！診療現場では、全員で診療準備です。初っ端から電気器具の調子がおもわしくない物もありつつのスタートでしたが、みんな笑顔です！初めてのバランガイホールは小部屋となる仕切りが多く、17名の医療従事者と現地スタッフが動くには動線の確保が重要課題となりました。午前中には慣れない室内を困惑しつつ動いていたスタッフも、昼食後に役割分担・動線を仕切り直し、午後の診療では見違えるようにキビキビとした活動となりました。9時から11時は義歯予約患者のみの診療の為、午前1時間、午後3時間の一般診療にも関わらず、総勢65名の受診者を迎える大盛況となりました。



2月10日(木曜日) 晴れ!!

活動2日目! この日は希望者がカハガンスクールで保健指導、染色ハミガキ指導、検診を行いました。



Dr 1名、DH 2名の3名グループを3つ作り、10時から低学年、11時から中学年、2時から高学年の予定で各班1時間ほど活動します。保健指導は日本から準備してきた化学実験をモチーフにしたスライム作りを体験しつつ、歯の汚れを知る!という内容を行いました。洗濯糊とホウ砂液を混ぜる事でスライムが出来ます。これを歯の汚れ(プラーク)と見立てて、プラークはうがいでは取れない! 歯ブラシでキチンと歯を磨く事が大切だという事を、目で見、手で触って確認してもらいました。

実際、子供たちが薬剤を混ぜ、スライムを作る体験時には皆、目をキラキラさせ、キャッキヤとはしゃいで体験してくれていました! 歯の汚れを体験した後は、恒例の染色をして海でブラッシングです! みんな手慣れたものです! カハガらしい青い空! 南国の強い日差しを青い海に映し、波がキラキラ輝いていました!



ブラッシングの後はチェックアップです。全ての児童を検診し、対象者を balan g ai ホールへ引率して治療を促します。もちろんこの日の受診者は最多の87名です!

あまりの天気の良いさに旅の疲れや頑張る気持ちが溢れてし

まい、体調を崩す者も出ましたが、チームワークが自慢の JDM! 皆が弱った者を支え合い、終日には皆が笑顔で活動を終える事ができました。

もちろん、balan g ai ホールでは9時から12時、2時から5時まで、残されたメンバーはテンテコ舞いで治療を進めています。現地スタッフのトッペルやマイケル、エバさん、ヴァージニア、タイミング良く駆け付けて下さった青木さんもアチラコチラで引っ張りだこです!!

夕食時に、崎山さんから「こんなに永く歯科教育をしてもらっているのに、歯磨き習慣が島民についていないのは何故ですか?」と辛辣に素直なご質問を頂きました。質問を受けた JDM メンバーからも「...を改善すればもつと!!」とか、「こんな取り組みをすればさらに!!」など、様々な意見が出ました。

結局、カハガンスクールにて学校の時間割の中に、全員が一緒に歯磨きをする時間を取り込む為の話し合いの場を持ちましょう、と言う事になり、11日のお昼に、崎山さん、村長さん、教師、ヴァージニア、DM メンバー(2名)で話し合いの場をもうける事となりました。子供達の歯を守る更なる1歩のための場です!!

GOOD LUCK!!



2月11日(金曜日)!!!

活動3日目! この日も義歯の SET が多い日! DT さんは皆より早く仕事開始!!

ボランティアとは思えない熱い働きです!! 感動的(*^_^*) カオハガンに到着して、休む間もなく義歯を作り続けている DT さんの大きな山場です!!

作る DT !! 合わせる Dr !! DH のサポート!! がっちりスクラムの素晴らしいチームワークでした!! お昼になり、昨夜予定された話し合いがカハガンスクールで始まりました!!

それぞれの立場からの最善の案が出され、時には声色が強くもなります！皆が真剣です。

そして、最終的には午後の授業に入る前、全員が集まるとすぐに全員で歯磨きをしてから午後の授業を始める事を時間割に組み込み、早速今日からスタートする事となりました！

2時からの診療前に、学校に確認に行くと、「バッチリしたよ！！」と教師の満面の笑顔を頂きました！！JDM が引き揚げた後もこの時間割が続く事を 祈りつつ…。

義歯の SET も大方終わった、この日の夕方。

DH 大西とヴァージニア、DH 2 人の 4 人で母親磨きの伝道者となるべく、家庭訪問に出かけました。あまり、皆、家におらず、広場のベンチが会場となり、集まる母子（父子）に染色&寝かせ磨きを指導し、必要な子にはシーラント充填を行いました。バランガイホールでは見られなかった、緩やかな空気の流れと、興味に溢れた島民の視線の中、笑いに囲まれて保健指導が進められました。



夜には恒例の庭での晚餐会が開かれ、皆、星空の下、笑い合い、語り合い、楽しみました！！もちろん、本日の反省会&翌日のミーティングも行いましたよ！

2月12日（土曜日）晴れ！！！！

とうとう、活動最終日です。午前には少しの患者様を診療しながら、在庫の確認作業と片づけが始まります。今回は医療者の人数が多いので、診療の傍ら早くから在庫確認と片づけが始められた。正午前には床までピカピカに磨き上げ、初日にバランガイホールに入った時と同じ状態に戻った。

4日間お世話になった思い出深いバランガイホールを片づける者の顔と手に「ありがとう」の思いが溢れているよ

うに感じました。バランガイホールを後にして、昼食後から運動開始の3時30分までは自由時間です。昼食後、珊瑚保護地区でのシュノーケリングや沖でのフィッシング、運動会準備など、各々が島の時間を楽しみました。

島民大運動会では、お玉すくい、大玉運び、リレー、玉入れ、2人3脚、綱引きを行いました。島恒例となった運動会では、昔の日本の運動会のように、そこに集まる人が皆笑顔で口々に競技を応援し、手を叩き、全身で楽しんでいました。競技の後は歯ブラシを配り、記念写真です。人々が手に手に歯ブラシを持って笑顔で会場を後にする姿を見て今回の活動も大成功だった事を実感しました。



5時半からは難破船での慰労会です。素晴らしい夕焼けの見える難破船で、みなでワイワイこの度の活動や日本での生活の話などで盛り上がっていると、島の女の子たちが感謝の手紙や貝殻を持ってお礼に来てくれた。思い出深い、嬉しいひと時となった

夕食後、最後のミーティングで全員が活動の感想を笑いあり、涙ありで発言した。この度、日本より持参したクレヨンや画用紙などのドネーションも無事、島に贈呈され、島の子供たちに贈られます。





大人数での活動でしたが、笑い声の溢れる素晴らしいチームでした。リーダーとして全員をまとめて下さった、河内さん、サポートして下さい上崎先生、大西さんのお心遣いに心より感謝いたします。

2月13日（日曜日）晴れ！！！！

早朝、真っ暗な中、東京組は一足早くカハガンを後に一路成田を目指しました。朝日が昇る頃、大阪組もマニラを経由し関空を目指して島を後にしました。

昼間に雨を見る事無く、サンサンと輝く太陽に恵まれた今回の活動は、太陽以上に参加者の笑顔が輝いた！！

素晴らしい活動を、素晴らしい仲間たちと共に楽しめる喜びを胸に、皆、家路についた事だと思う。

データ

処置内容	2/9	2/10	2/11	2/12	合計
抜歯	84本	58本	98本	3本	243本
CR充填	10本	8本	14本	0本	32本
セメント充填	14本	171本	45本	3本	233本
TBI	1人	2人	1人	0人	4人
SC	4人	9人	17人	0人	30人
義歯関係	15人	5人	5人	2人	27人
義歯セット	10人	0人	15人	0人	25人
その他検診	0人	10人	0人	0人	10人
患者数	65人	87人	80人	5人	237人

9日…9時～11時は義歯優先治療の為、チェックアップは11時より開始した。

10日…カハガンスクールにて保健指導後チェックアップを行い、診療所へ引率した。

12日…午前も診療。片付けをしながらの診療となる。

12時には機材の全てを撤収終了。

受診者居住島

島の名前	4日間合計
カオハガン	56人
カオハガンスクール	74人
ハガンアツ	5人
カブルアツ	20人
ハンダノ	82人
総患者数	237人

リーダー報告

河内 光明

2月8日から2月13日まで、歯科医師7名、衛生士7名、技工士3名の17名で行ってまいりました。

今回大人数でのバランガイホールでの診療と技工でしたが、ホール内での通路が狭く、作業能率のことを考えるとマイナス面が多く、次回からは礼拝堂での診療、技工が最適と思われます。今回初日からデンチャーの印象とセットにメンバー 全員の協力を得て、最終日まで50床前後セットすることが出来ました。又、学校訪問、保健指導、家庭訪問も計画通りに進み、無事終わることが出来ました。参加された方で 体調を崩された方がおられましたが、帰国前には元気になり一安心いたしました。期間中はメンバー一人一人が最大限能力を発揮して頑張っておられました。運動会、自由時間、海岸沿いのバーでの一時、楽しく過ごすことが出来ました。参加された皆様との再会を楽しみにしております。最後に私をサポートして下さい上崎先生と大西様に感謝いたします。

海外活動参加者の声

栗原 直士(歯科医師)

「活動を終えて」



歯科医師になることができて3年。ようやく少しは心落ち着いて診療できるようになれたかという頃、いつもの場所を遠くはなれ、異国の限られた条件の中で初対面の人達と力を合わせるという経験は、今の自分に大きな学びとなるだろう。そう思い、参加いたしました。国が変われば、その土地の生活様式や文化的背景を考えることの大切さを知りました。

また、常に相手を思いやるという心は、患者さん側には言葉が通じなくても伝えることができ、こちら側においてはチームワークを作り出すと思いました。「患者さんがいて、そして周りの先生方、スタッフの方々に助けられ、自分がいるんだな」と改めて感じることができました。沢田先生をはじめとして、みなさん明るく面白くとても話やすく、自分がこんなにリラックスして診療できるなんてと驚きました。島の自然のチカラだけでなく、JDMが歩んでこられた歴史と縁があって、ご一緒することができた皆さんの意識や心の温かさから作られる空気感、これが私にとって何より安心と成長をもたらしてくれた気がします。

ここで学んだことを胸に、これから歩んで行きたいと思いました。

黒飛 一志(歯科医師)

「カオハガンの感想」

「イボ」これは、ビサヤ語（フィリピン南部の言葉）で「抜歯」という意味です。

カオハガン島の人々は、日本の患者とは違い、痛みがある歯は「抜歯」をしてくれと言ってきます。

「イボ」という言葉をたくさん聞きました。日本の歯科医療では、「保存療法」が優先されます。

できるだけ抜歯をしない治療が好まれますが、歯科教育が十分でない地域では、痛みがあると、抜いてくれと言ってくるのです。植立のいい歯牙をたくさん抜きました。正直、心苦しかったです。

歯科医師として、まだ歯科教育の十分でない地域に1本の歯の大切さを伝えていきたいと想いました。

自分自身は、7年前に関西・子ども・夢チャリティーというチャリティー団体を作り、

児童養護施設の子どもたち100名を、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(R)に招待し、彼らの夢を100人の大人サンタが応援するというイベントをしています。今回、自分自身のフィールドである歯科の分野で初めての

ボランティアでした。いつも自分の中での言葉は、「今、自分自身にできる最大限の貢献を世界にしていこう」という言葉です。

今、まだまだ未熟な自分ですが、自分自身ができる最大限は、歯科治療を提供することだと思い、今回の JDM に参加させていただきました。

訪れたカオハガン島は、素晴らしい場所で、日本では経験できない自然、島民の暖かさや、ゆっくりと流れる時間、平和がそこにありました。毎日をどのように効率よく生きるかを追求していた自分自身にとっては大きなショックを受けました。島の持ち主の崎山さんに話を聞き、日本に生まれることが幸せであるとは限らないと思いました。このカオハガン島に生まれ、自給自足の生活の中で幸せに暮らせることも、別の



幸せな生き方かもしれない。成果で判断されるのではなく、プロセスが大事なこともかもしれないと考えることができたのは、効率主義だった僕にとって本当に大きいことです。

そして、ボランティアに参加されている方々は素敵な方ばかりで、みんなで助け合い、一つのことを成し遂げるという素晴らしい経験ができました。日本の診療室と比べると、環境はよくありません。

その中で、植立の良い第一大臼歯を抜歯する機会があり、なかなかうまく行かないことがありましたが、他の先生に、診断の相談をし、協力すれば、なんとか抜けることもしばしば。他の先生がいらっしゃることに、感謝しました。

歯科衛生士の方々には、小児の6歳臼歯と乳臼歯を保存する大切さを教えてもらいました。

一生懸命に、子どもたちの歯列を守り、将来につなげようとする姿勢には感動しました。歯科医師として、考えさせられることが多かったです。歯科技工士の方も、環境の悪い中で、本当に苦労されたと思います。

3日間の間に10個以上の義歯を印象から完成まで作っていただき、それも調整も少なく、島民の方に喜んでもらったのが、うれしかったです。日本とは違った時間の過ごし方をして、たくさんのことを考えました。

そして、別の目標ができました。子どもたちの笑顔は何ものにも変えられない宝物です。

僕は子どもたちの笑顔をもっと作れる人間になるという目標ができました。

本当に素晴らしい機会を作ってくださり、すべての関係者に感謝しています。

ありがとうございました。

今後も、JDM を応援します。

「ボランティアって？」



ボランティアって？ニュースやチラシで色々な記事を見かける度、何か自分にもできることがあれば、とずっと思っていました。寄付…？どんな人たちが何に使うんだろう？そんな時、友人を通してカンボジアでボランティアに関わっている人と接する機会を持つことができ、それをきっかけに、まずは自分の体で経験しよう、と思い広く門戸を開いてくれていたJDMに参加させていただくことになりました。

島を訪れる前に崎山さんの本をじっくり読んで、自分の中でイメージがどんどん膨らんでいきました。島はイメージをはるかに超えるとても

も素敵なところで太陽、風、雨の中で暮らしていることを実感しました。

初日、意気込みと不安の中、診療が開始されました。普段慣れ親しんだ日本の医療器具、歯科用チェア、レントゲン、あれも無い、これも無い…。1日目はバッチリへこみました。

夕食後、一人で月明かりと風だけのコテージでベッドに仰向けになって考えました。`せっかく来たんだ、へこんでないで自分に出来る事を精一杯、そして楽しくやろう！`

翌日からは自然と笑顔も増えて、充実した診療をすることが出来ました。初参加 Dr 3名、後で話してみると皆同じ事を考えてたみたいで、何だかホッとしました。

診療最終日には抜歯で手の皮がズル剥け、診療後調子に乗って子供を肩車して転倒、腰をイワして膝を擦りむいてしまいました。でも不思議と痛みは無く（カオハガンの消毒は痛かったですが）、この文章を書いている今、傷が治ってしまうのが何だか勿体ないような、寂しいような気がします。最終日のシュノーケル、運動会などは大人げなくかなり本気で参加してしました。

言葉で説明するのは難しいですが、本当に参加してよかったと思える6日間でした。そして初日から最終までずっと感じていた事はJDMの築いてきた歴史です。今回参加して毎日を過ごす中で、また崎山さんや沢田先生がミーティングの時におっしゃられていた言葉を聞いて、今まで何年もかけてJDMが地道に土台を築いてきた結果、今のJDMの活動が出来ているんだなという事を強く感じました。そして現地の方や崎山さん、島で会った人達やJDMのメンバーから多くの事を学ばせて頂いたと思います。

ボランティアって？の答えはまだはっきりとはわかりませんが、その単語に対する考え方は以前に比べ確実に自分の中で変わってきているのがわかります。

これからも自分のできる範囲で、できることをやっていこうと思います。そしてまた参加したいなと思います。ありがとうございました！

柿野 聡子(歯科医師)

「カオハガンでの活動を終えて」

カオハガンでの活動は、日本での日常をすっかり忘れるほどの有意義な時間でした。私は海外ボランティア活動に参加したのは初めてで、初日の診療では日本とは文化も言葉も違う中での医療活動に戸惑いもありました。でも、治療に訪れた方々とお互いにコミュニケーションをとろうとする中で、日本でもこの国でも、今ある環境で患者さんのために何が最善か考えるのは同じだということに気づかされました。治療に際しては、日本との違いやカオハガンの歯科事情に基づいたやり方など、JDMの先生や衛生士さんなど先輩方



から多くのアドバイスをいただき、私にとっては大きな財産となりました。治療だけでなく、虫歯予防のための家庭訪問の試みも始められているのを見て、カオハガンの子供たちの歯を守っていくことへの熱い思いを感じ、感銘を受けました。これまでの活動の積み重ねで成果が出てきているというお話を伺いましたが、その延長線上で微力ながら自分も参加させていただいたことは、本当に貴重な経験になりました。

また、短い時間でしたが、空き時間や運動会などで島の方々とたくさん触れ合うことができました。物は溢れていても人間関係が希薄になりがちな日本のことを思い返すと、カオハガンでの時間は本当に貴重なものを感じました。

そして何よりも、きれいな海や夕焼け、夜空にはとても感動しました。出発前には、電気や水が日本のように使えないことなど不安もありましたが、到着したらゆったりした時間が流れるカオハガンに溶け込むことができ、そんな心配事は不思議なくらい吹き飛んでいました。

初参加でしたが、6日間とても楽しく過ごすことができたのは、お世話になったJDMの方々や現地スタッフの支えがあったからこそと思っています。帰りは成田組で深夜の出発だったのにかかわらず多くの方々に見送っていただき、皆さんの優しさに本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

佐々木 千尋(ボランティア)

「カオハガンの感想文」

はじめてJDMの活動に参加させていただいて、はじめはとても心配でした。

当たり前のことですが、日本語も通じませんし、自分のせいで足を引っ張ってしまったらどうしようなどなど、とても心配でした。

でも、応募した時にとりあえず自分の出来る事をせいっぱいがんばろうと心にきめてカオハガンに行きました。

でも、島に着いて、島民のみなさんと交流し、みんなの人懐っこさや何もなくてもいつも笑顔で元気いっぱいな姿を見ていると自然に私も笑顔になり、不安などけし飛んでしまいました。

診療の初日から沢山の人が診療にこられて、自分が出来ることはほんの少しでしたが、島民のみなさんにサラマ（ありがとう）と言ってもらえたとき、こんな私でも役にたつのだと感激しました。また、先生たちも機材の



説明や歯についても、とても丁寧に教えてくださり、とても嬉しかったです。

治療の手伝いだけでなく、島の子供たちと鬼ごっこやかくれんぼをして、とても忙しかったのですが、とても楽しかったです。自然と私も笑顔になって、沢田先生や他の先生方が「千尋ちゃん的笑容を見ていると元気になる」と言ってくださった時、とても嬉しかったと共に、笑顔ってこんなに人を元気にする力をもっているのだと気づかされました。

一週間という短い期間でした

が、私にとって感動と感激の嵐でした。カオハガンに行く前は どうせ自分なんか・・・とか、私って駄目だな～と常に思っていたのですが、帰国後、何事もやってみようという意気込みと、いつも笑顔で人に接しられるようになりました。

喜び、感動、自信、などなどこの活動を通してたくさんの事を教えてもらいました。

本当にありがとうございました。この経験は私にとって一生の宝です。

松浦 系亮(歯科技工士)

「ボランティアの感想」

今回が初めての海外、歯科技工士としてのボランティアも初めて、といろいろなことが今までに体験したことのないことばかりでした。

始めは自分に何ができるのか、他の方々の邪魔にならないかと不安ばかりでしたが、自分に出来る限りのことを一生懸命がんばろうという気持ちで取り組むことが出来ました。

一緒に行ったスタッフの方々のやさしさもあって、もしかしたら迷惑を掛けたかも知れませんが、とても充実した時間を過ごすことができました。

また朝早くに技工スペースの準備をしていると現地の方がコーヒーとパンを出してくださりました。本当に多くの優しさ暖かさに触れることが出来、ぜひまた行きたいと思いました。



橋本 はるか(歯科衛生士)

「カオハガンの感想」



参加する前までは一人で参加する事や知っている人がいない、自分には何ができるだろう…などその他にもたくさん不安な事がありました。ですが実際に行ってみるとみんな親切でそんな不安はすぐになくなりました。

しかし私はまだ衛生士になって3年、周りの方は自分より先輩でキャリアの長い方がたくさんいらっしゃるので、診療の方に対する不安はなかなか消えませんでした。

そんな私の気持ちを察して体調を気にかけて下さったり声をかけて頂いたり、心配りがすごくありがたかったです。またデンチャーの印象やセメント充填など普段の仕事では行った事がないことも教えて頂き挑戦させていただきました。

診療の事だけではなく島の方々、参加メンバーの方々にも言葉では言い表せない様な事をたくさん教わりました。今回参加させて頂き、毎日多くの事を学ぶと共に自分の知識と技術のなさを感じ帰ってきました。

これから新たな気持ちで仕事に臨もうと思いました。この1年間頑張り、また来年挑戦しにできればと思っています。6日間お世話になりました。ありがとうございました。

笹川 琴絵(歯科衛生士)

「カオハガン島 歯科ボランティアに参加して」

今回、初めて歯科ボランティアというものに参加しました。

きっかけは、衛生士になって6年、日々の仕事にばかり追われて「私ってこのままでいいのかな？せっかく衛生士になったのに勿体無くないかな？」と、何かつかめないかなと思いながら参加を決めました。

最初に思ったのは、私の考える状況と島の状況が全く異なり、自分の偽善的な考えが間違っていた



んだな、と気づいたことです。

カオハガン島の島民は、TVや車がなくてもHAPPYな笑顔で、海の資源を摂って、それぞれ生きていました。勝手に貧困とか想像してた自分が恥ずかしかったです。

こうやって島民と身近に関われたのが、一番私は経験になりました。言葉はなかなか通じないけれどもこうやって実際にかかわってみたいとわからないことはあるなーと実感です。

歯科ボランティアは1日、体調不良で欠席してしまい悔し泣きでしたが……。参加中は改めて予防業務の重要性を感じました。日ごろなんとなーくになりかけていたシーラントの重要性、効果も実感でした。

後はすべてにおいて、知識を持つことの重要性を感じました。歯ブラシの仕方はわかるが、やる必要性・習慣化がない……。日本でも同じ状況はありますが、老若男女みんなが習慣化していない状況からの覆しは、なかなか難しい課題です……。TBIでうかがった学校の子供たちへ「歯磨きは大事！」というメッセージがちょっとでも届けばなあ、と思いました。そして、いつか習慣化して今の子供たちの将来の子供達にもどんどん伝わるといいですね！！その気持ちをそのまま日々の臨床にも生かしていければ、と思います。

今回の経験で、前より「衛生士って仕事、素敵な仕事じゃん！」と思えました。

またリベンジ、できたらしたいです！

ありがとうございました！！

山崎 亜希子(歯科衛生士)

「ボランティア活動に参加して」



JDMの活動に参加している友人が昨年、ボランティア体験談を勉強会で瞳をキラキラさせながら話してくれました。彼女の熱い想いに胸をうたれ参加を決めました。

自分に何が出来るか不安を抱えていましたが、大西さんをはじめ、経験者の皆さんが丁寧に教えて下さり、なんとか活動をこなす事が出来たように思います。

スクーリングに関しては、更にスキルアップが必要だと痛感しました。

楽しみにしていた小学校での保健指導。しっかり話を聞いてくれた事、スライム作りに熱中する子供たちの

姿が忘れられません。また予想以上に歯みがきが上手だったことに驚きました。新しい試み、学校での歯磨き！！継続されることを祈ります。微力ではありますが、カオハガンの方々の歯科衛生向上のお手伝いをさせて頂きたいと思います。衛生士になり15年、久しぶりに心弾みました。

この活動を経験し、一人の人間として、衛生士として様々な事を感じ、考えることが出来ました。今後に繋げていきます。

友人の言葉「ボランティアは与える以上に得る物の方が多い」本当に、その通りでした。いい経験・出逢いを沢山させて頂きました。背中を押してくれた友人達に、メンバーに、笑顔で迎えてくれた島民の方々に、心からありがとうございます。

また、笑顔の子供達に逢いに行きます。

清水 絢子(歯科医師)

「初参加させていただいて感想」

今回、初めて参加させていただきました。状況がまったくわからない中で、「自分に何ができるのだろうか？」と、正直不安でした。いざ、診療が始まってみると、普段の治療と勝手が違うことに戸惑いました。「ここでどうやって治療したらいいの?!」周りのドクターに聞きながら、ここでの診療の流れを掴むのに精一杯でした。そして、カオハガンでのベストは日本とは違う葛藤がありました。けれど、できる限り患者様の口腔内環境が豊かになることを目指し、ただ抜歯するだけでなく、充填、義歯、保健活動などこの島の未来をみた活動をしている JDM に参加



できてよかったです。力足らずな私でしたので周りの方々に助けていただくことが多く、不甲斐ない思いもしましたが、自分ができることを探し自分なりのボランティアができたのでは、と思います。また、カオハガンの自然と島の人たち、流れている時間の心地よさに本当の「豊かさ」とは何なのか・・・考えさせていただきました。ここには日本にある便利なものはないけれども、心豊かに暮らしているのかな、と思いました。言葉では言い表せないですが、肌で感じた空気、目で見た景色、耳で聞いた島の生活の音、感動しました。

この活動を通して、同じく参加した皆さまとの出会い、カオハガンの人々との出会い、素敵な出会いが本当にたくさんあり、感謝しています。ありがとうございました。まだまだ微力な私ですが、これからもこのような活動に参加できたら、と思っております。

中原 みどり(歯科衛生士)

「JDM フィリピン・カオハガン島ボランティア参加感想文」



島主の崎山さんより、「歯ブラシの仕方はみんな良く分かっているが、毎日磨く習慣がまだ付いていない。そこを指導して下さい」と聞き、衛生士としての闘志に火が付きました。

学校での指導も磨き方よりも、毎日磨くことの必要性を繰り返し伝えました。診療室でも、スケーリングを終えた人に、磨き方と毎日磨くことが大切だと言ってブラシを渡していきました。

いつの日か、カオハガン島で歯を抜く処置をしなくなる時が来ることを願います。

今回初めて JDM での活動に参加させて

いただきありがとうございました。

JDM の長年に渡る活動の中に参加できたことの喜びと、出会えた皆様に御礼と感謝の気持ちで一杯です。
ありがとうございました。

倉橋 朋子（歯科衛生士）

『念願のヴァヌアツ』



2007年に初めて JDM のメンバーとしてカオハガンに参加してから、ずっと行きたかったヴァヌアツに！今回やっと参加することができました。今までのヴァヌアツ参加メンバーから話を聞いたり、テレビでの映像を見たりしてヴァヌアツへの思いは膨らむ一方でした。

感想として、思っていたよりも拓けているなあ、でした。 私の頭の中では、もっと秘境のイメージでした。でも空港から病院へ向かう道中、ジャングルの緑には圧倒されました。ねじねじに絡み合った樹、大地にしっかり根をはった樹々、多くの緑に囲

まれて清々しさに包まれました。私以外は継続して参加されているので、活動準備の無駄がないことにびっくりし、言われるがまま準備していました。この時はまだ、着いてすぐで実感がわいていなくて、頭の中はふわふわした状態で、手だけが勝手に動いてました。

学校歯科検診では、学校によってむし歯の発生に違いがあり、検診を待っている間にサトウキビをかじっている子もいて、今後の子供達のむし歯の予防が大切になると痛感しました。 その点では、かばさんの媒体での指導で、甘いものを食べすぎると NG というのが、子供達に伝えられたのでは?? と思います。媒体も子供参加型で、楽しめる内容に、さすがベテラン衛生士の大西さん！と尊敬し、とても勉強になりました。

診療所では、歯石とりなどのクリーニングをしましたが、カオハガンの方達も歯石は硬くべったりとついていますが、ヴァヌアツの方々の歯石は・・・強敵でした。

機械が1台しかなかったし、ハンドの方が良かったので、ハンドで歯石を取っていましたが、日本では使ったことが無い、というか使うことがないであろう、大型の鎌型のスケーラーでクリーニングしました。この強敵に勝てたとき、(歯の形のまま歯石がボロっととれた時) 自分1人で満足するのは申し訳なかったので、患者さんにも取れるたび見せていました。患者さんと2人で「ワオ、すごいね。」って。 帰り際に彼女は、「すっきりしたわ。ありがとう。」と多分そんな感じの英語を話されていて、あんなに強固にこびり付いていた歯石を取るのに彼女も辛かったはずなのに、笑顔で帰っていく姿に感謝でした。

天気にも恵まれ、殆ど雨も降らず、ボルケーノにも行けて私に訪れた幸運がありがたかったです。 ボルケーノの自然の強さ、お腹の底に響く噴火、自然に飲み込まれそうな恐怖を感じました。ボルケーノの帰りのドライバーの運転にも多少の恐怖はありましたが…

あの運転の中、荷台ののって全員子供のように流れ星を捜している姿に微笑ましく思いました。

そして、今回の活動で少しは痩せて帰れるのでは?? と期待していたのですが、レトルトばかりのご飯と思っていましたが、野菜いっぱいの愛情いっぱいの料理に毎日お腹いっぱい食べてしまいました。美味しいご飯をありがとうございました。

夜、吹き抜けの食堂は、ダウンのジャケットを着ないといけなくらい、寒かったです、メンバーやトメルさんの会話に爆笑で暖かい気持ちになりました。

初めて JDM の懇親会に参加したときに、田代さんから言われた言葉を思い出します。

「ボランティアをやりたいくても、できない人はたくさんいる。」

「時間(休み)がとれない、金銭的に余裕がないと行けない、体が健康じゃないと行けない。

このどれか一つでも欠けるとボランティアに参加することは、出来ない。だから、ボランティアに参加できることは、幸せなこと。」

私は田代さんと活動をご一緒したことはありませんでしたが、日本で一緒に陶芸をしたり、何度かお話したりしたことがありました。今回ヴァヌアツでのセレモニーに参加できたことに感謝いたします。

今回の参加には、多くの人のサポートがありました。

休みを許可してくれた院長、私の仕事を負担してくれた職場のスタッフ達。

出発の1ヶ月前に腰痛が再発して、荷物運びや、トラックでの移動の時の活動メンバーの大きな助けがありこの活動を乗り切ることが出来ました。

この濃密な活動のおかげなのか、(この歳にしてお恥ずかしいのですが)極度の人見知りがあるのですが、活動前にキヨちゃんが言っていたように、メンバーと家族のように過ごせるとは思っていませんでした。

また参加できる時がありましたら、その時は腰を万全に参加したいと思います。

いつかヴァヌアツに。 あの心地よいヴァヌアツの香りに。



八尾市立南山本小学校とレナケル小学校との国際交流

八尾市立南山本小学校

教諭 津崎 恵子

はじめの一步から・・・新しい職場での小さな挑戦

今年度、長年勤めた西山本小学から南山本小学校への転勤を命ぜられた。一千本の桜並木が玉串川沿いに続く閑静な住宅街に建つ本校は、シンボルとなる円形校舎が有名で、地域の方々が土曜日には子ども達のためにわくわくプラザというボランティア講座を開催されている。また、かつては文科省からの指定を受け、研究校として実践を重ねてきた伝統ある小学校である。子ども達も素直で礼儀正しく学力的にも高いように思う。私にとっては大変恵まれた環境の中で仕事ができるということでこの転勤に感謝している。が、やはり職場が変わるという事は何もかも勝手が違い、ちょっとした事にも慣れるまでに時間が必要であった。そんな中で今まで取り組んできた「ヴァヌアツとの文化交流」がここでも出来るのだろうか・・・。

5年生を担当することになり、この取り組みを本校でもやってみたいということを校長に相談したところ逆に是非進めてほしい、人としての生き方を子ども達に学ばせてほしいと頼まれてしまった。再び「ヴァヌアツとの文化交流」をさせていただく機会を与えられたことに対し感謝の気持ちでいっぱいだった。

他の2クラスの担任にこの取り組みの趣旨を話し、いよいよ南山本小学校でのヴァヌアツとの交流がスタートすることになった。

5年生の総合的な学習では、米作りや私たちを取り巻く環境について学習していくのであるが、他の教科とリンクさせながら、今自分たちにできることは？と常に考えさせたいと思っている。今年度、新たに取り組みはじめた本校の「ヴァヌアツ共和国との交流」も、どんな国のどんな暮らしをしている人たちなのか・・・という自然環境から入ることにした。

ヴァヌアツ共和国との交流を進めるにあたって5月に学年全体でオリエンテーションをした。なぜ、この取り組みを始めるのか・・・。単なる作品の交流だけでなく心の交流を図り、人として一番大切なことは何だろう？という課題を1年間かけて勉強していこう！と話した。子どもたちは話を真剣に聞き、たくさんの質問をしてきた。ここで答えることは簡単であるが、自ら調べてヴァヌアツの事を少しずつ分かっていくことも大事な学習の

一つである。あえて質問には答えず次の調べ学習につなげていきたいと考えている。

16日（水）に JDM（ジャパンデンタルミッション）理事の沢田先生がヴァヌアツの国や人々の暮らしなどについての授業をして下さった。鉛筆や紙など、私たちが当たり前のように使っているものの殆どがラナケル小学校（交流予定の小学校）にはない。日本からの医療ボランティアの方たちが年に2回医療活動の際に衣類や文房具などを持って行かれるのである。虫歯や入れ歯の治療も機材を持ち込んで全てボランティア！この日、ものがない社会で暮らす人々の「素敵な笑顔」「素直な心」に魅了された沢田先生の熱いお話を聞かせていただくことができた。



た。まだ、この取り組みが始まっていない時から南山本小学校の子どもたちはエンピツをどんどん寄付してくれている。ありがたいことだと思っている。子どもたちの温かい素直な気持ちを大事にしながらこの取り組みをコツコツと進めていきたいと思った。

保護者の感想

・この授業をするまでヴァヌアツ共和国のことは国名すら知りませんでしたが、子どもたちが色々調べたのを見せてもらったおかげで、知らなかった事を教えてもらい大変ためになりました。子どもも世界の国々に興味を持ち始めたようです。

・班発表、感心しました。どの班もどの子もめちゃくちゃヴァヌアツ共和国に詳しくて、興味を持って調べたんだろなあと同じ知れたことが驚きでした。人形を作ったり、黒板の資料を作ったり、とても詳しい内容を短時間に分かりやすくまとめて発表できていて良かったです。

・子どもたちが自分たちで調べ、考え、発表し、達成感を感じてる姿が印象的でした。外国をテーマにした点も良かったと思います。もう1時間、授業を参観したいと感じました。

・ヴァヌアツ共和国の大きさや人口、食生活などを良く調べ、班ごとにまとめており、子どもたちが一生懸命調べている姿が目に見えました。発表もみんなしっかり話が出来ていてすばらしかったです。

子どもたちの感想

・今日のヴァヌアツの発表は、今までがんばったことが全部発揮されたんじゃないかなあと思いました。発表まではセリフやまとめはどうすればいいかなと悩んでいたけど無事に発表できて安心しました。他の班の発表も聞いていておもしろかったです。「すごいなあ。」と思うことがたくさんあってもっともっとヴァヌアツについて知ることができた感じがしました。・・・今回の総合でのヴァヌアツについての調べ学習では色んな事を学び教えてもらったことがたくさんあったと思います。

・ヴァヌアツのことを調べたり聞いたりして、こんなに貧しくてもちゃんと暮らしているヴァヌアツの人たちはうまく工夫しているんだなあと思いました。

・日本は技術が発達していて便利です。今こうして楽しく生活していられるのがありがたいと感じています。

・ぼくは当たり前のように筆記用具を持っているけど世の中にはいろいろな人がいることも分かりました。食・住・学校・遊びとスポーツ・歴史・衣などいろいろなヴァヌアツのことが分かってうれしいです。

・みんな話を聞いていたら、ヴァヌアツ共和国がどれだけ貧しいか分かりました。ぼくたちとまったく違う住み方なのに、努力して生きていっていることを知りました。自分の命は自分で守ることはとってもむずかしいことだと思いました。

・ヴァヌアツ共和国の生活はたいへんそうに見えるけどヴァヌアツ共和国の人たちは毎日を幸せに過ごしていることがわかりました。自然といっしょに生活しているのはすごいと思いました。ほかの人たちが発表しているのを聞いてとても勉強になりました。

- ・お風呂はなく、川や海で体を洗う。
- ・鉛筆は1本を3つに折って使う。
- ・サッカーボールは椰子の葉っぱを編んで使う。
- ・紙は貴重品で真っ黒になるまで使う。
- ・トイレは穴を掘って・・・靴はなく裸足で・・・

という各班からの報告を聞くにつけ、子どもたちはヴァヌアツ共和国の人々の暮らしを「かわいそう」「貧しい」というイメージで捉えているようだ。ほんとうにそうなのだろうか？これからじっくりと時間をかけて、自分たちにとって何が大切なのか・・・ということを学んでほしいと思っている。

子どもたちに、何を学ばせるか・・・。自分自身を見つめ直し、何が大切なのかを見抜く力をつけさせたい。また、沢田先生の長年にわたる医療ボランティアや青少年育成のための取り組みを通して「自分たちはどう生きるべきか」ということを考えさせたかった。沢田先生の生きざまから何かを感じ取ってほしいと思い、学期に一回ごとの授業をお願いした。パソコンによる映像などは最小限にいただいた。ボランティアを始めたきっかけ、

挫折感を味わった頃、感動で胸が熱くなったとき、「引きこもり」や「いじめ」にあった子どもたちと共にヴァヌアツの夜空を眺めて語り合ったとき……。数々の体験談をシャワーのように子どもたちに浴びせてほしいとお願いした。教科学習の定着は言うまでもないが いろいろな人々の生き方から学ぶということはそれ以上に大切ではないかと考えている。

以下は毎学期ごとに沢田先生に授業をしていただいた様子を保護者向けに発信したものである。

第1回目 ヲァヌアツのことを知ろう！

雨の中、早朝より多数ご参集下さいましてありがとうございました。啓発学習ということで、これから1年間かけて取り組むヴァヌアツ共和国についての調べ学習の初期を見ていただきました。まずは、相手の国のことを知る・・・ということで、自然や文化、学校、衣、食、住、遊びを通して、世界にはいろんな人々がいるという広い視野を持たせることをねらいとしました。日本とはかけ離れた国の環境を知ることによって日本を見つめ直すきっかけにもなればと考えています。

実際に交流を始めるタンナ島の子どもの生活を調べよう！とパソコン室でいろいろ検索をしてみました、どうしても観光客向けの情報が多く調べた内容に随分差がありました。そこで本校にゲストティーチャーで来て下さるジャパンデンタルミッション代表理事の沢田Drに現地での様子を担任が電話でお聞きしたり写真をお借りしたりしてタンナ島のありのままの姿を教えてくださいました。自分が行くとなると現地までどれくらいの時間がかかるのか・・・というところから出発（子どもたちはせっかく調べたのにメモを手元に置いていなかったようです。）し、はるか彼方の全く異なる文化の子ども達に思いを馳せました。ヴァヌアツはバンジージャンプ発祥の地だそうです。元服にあたるこの儀式。男の子たちは「ヴァヌアツに生まれてたらこんな怖いことせなあかんねんな。」とつぶやいています。一方ではどこまでも透き通るサンゴ礁の海を眺めて、「こんなきれいなところに住みたいな。」・・・だそうです。私たちと比べればタンナ島はほんとに不便で生活は厳しく暮らしは大変だと思います。そんな島の子どもたちとどんな交流が出来るのでしょうか？これからみんなで考え、具体的な取り組みを進めていきます。

調べたことを発表するときは・・・

- ・声を大きくはきはきと。・何をどう伝えたいか。
- ・聞く側に立ってみる。・掲示物の配置、字の大きさ、見やすさ。

これからの調べ学習にはこの課題をクリアできるように頑張りましょう！

第2回目 ヲァヌアツのことをもっと知ろう！

沢田先生の2回目の授業が行われました。診療所の休診日にあたるこの日、早くから本校にきていろいろと準備をされていました。沢田先生は子どもたちが大好きでこの日を楽しみにしておられたようです。スクリーンに映し出された現地での医療活動や子どもたちが描いて送った絵を楽しそうに掲げている様子を見て「あっ、あのお城、〇〇君が描いた絵や！」と叫びながら、確かに遥かかなたのヴァヌアツに届けていただいた！という実感がわいてきたようでした。また、世界で一番近づける火山の迫力ある噴火の様子に、子どもたちは「ウォ～ッ！！」と腹の底から歓声をあげ一



沢田代表理事と一緒に

心に見入っていました。昼は灰色一色の噴煙ですが夜は赤々と火を噴くヤスール火山の二つの顔を子どもたちは

どう受け止めたのでしょうか。この間、子どもたちはきっとヴァヌアツに身をおいて大自然を楽しんでいたのではないかと思います。遠い遠いまだ見ぬ国「ヴァヌアツ」へ私も子どもたちと行ってみたいと思いました。前回同様、沢田先生を囲んでのランチタイム。食事を共にするというのはほんとにいいですね。仲良しになる絶好の機会です。今回は3組で食べていただきましたが、一緒に来られた理事の栗山さんは我がクラスで・・・ということでこれまたクラスが盛り上がりました。もう1組は大阪船場ロータリークラブの岩本会長です。



栗山副代表理事と一緒に



大阪船場ロータリークラブ岩本会長と一緒に

今回の文化交流も子どもたちにとって思い出深いものになったのではないかと思います。沢田先生を囲んでみんなで記念撮影をパチリ！次回が楽しみです。

第3回目の沢田先生の授業が行われました。

今回のお話は子どもたちには少し難しいかなと思いましたが、敢えてこのテーマにさせていただきました。中学生の時ひきこもりになり高校も入学したものの1年生の2学期で中退し、目的もなくゲームに心のよりどころを求めていた「新井さん」の体験談が教材でした。新井さんが、何となくヴァヌアツのボランティア活動に参加することとなり、沢田先生らと共に10日間を現地で過ごす中で次第に自分の意識が変わっていく……。帰国してからは、自分には仲間がいること、自分は生かされていることなどに気づき音楽大学に合格するまでのことを、新井さん自ら書いた文から学びました。

子どもたちの書いた感想文はなかなか読みごたえのあるもので、近々これを沢田先生にお渡しする予定です。

「仕事は自分で見つけるもの。」「自分は必ず誰かの役に立っている。」

「生かされていることに感謝すること。」「私も変われるような気がする。」

「周りからかけてもらった言葉がきっかけで一歩前に進むことが出来る。」…

子ども達の心の中に様々な思いが生まれました。今は難しいかもしれないけれどいつかきっと、こういう授業の中の一つでも「ああ、こういうことやってんなあ。」と思いだしてくれることを信じてこれからも頑張ろうと思います。

授業の後、「世界がひとつになるために」♪を合唱し、各クラスの学級代表がお礼の言葉を述べ、全校で集めた鉛筆を沢田先生にお渡ししました。子ども達の歌声に先生は胸が熱くなったようです。

お忙しい中、参加して下さいったこと保護者の皆さまには心よりお礼申し上げます。

今年度最後の取り組みとして、ヴァヌアツに贈るタペストリー作りを予定しています。2月17日の参観後になるかと思います。

素敵なタペストリーが仕上がりました！

3日(木)放課後たくさんの保護者の方にお手伝いいただき、ヴァヌアツに贈るタペストリーが仕上がりました。各クラスごとに班で1枚の白い布に自分の顔とカラフルな手形を描きました。それを6枚つなぎ裏打ち用の布を合わせベッドカバー程の立派なタペストリーが完成しました。来年度の7月、この作品を沢田先生に託しヴァヌアツまで持って行っていただきます。保護者の皆さまには遅くまで作業して頂き、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

本校での1年間を終え、子ども達の中には沢田先生もヴァヌアツの人々も自然に溶け込み、次なるステップを心待ちにしているようだ。自分達にしかできない素敵なこの取り組みがさらに深く温かく充実したものになるよう頑張りたいと思う。





フィリピン・カオハガン島からの研修生を向かって

2010年9月から2ヶ月間、カオハガン島の住民である Virginia A. Manilag を沢田代表の経営する沢田歯科で研修を行いました。彼女はフィリピンでは保健婦の資格を持っています。今回の目的は JDM チームがカオハガンで活動する時の、色々な支援をしてもらうためのトレーニングです。主に治療補助、通訳です。

同時に日本の文化に触れてもらい、フィリピンとの違いを理解し、今後の JDM の現地での活動がスムーズに行えるように協力して頂くのが最大のテーマです。

2ヶ月間の研修を終えた時点での、彼女のレポートです。

日本での生活

日本滞在中の2ヶ月間の私の印象は、日本には美しい観光名所が沢山あり、とても楽しむことが出来ました。特に、海遊館水族館は、ワオ！すごく大きくて美しかったです。とても楽しかったです。また東大寺では大仏を見た時は大変驚きました。

日本とカオハガンの文化には大きな違いがあります。私は普段は朝、風呂に入りますが、日本では夜です。またカオハガンでは手で食べますが、日本では箸で食べます。でも箸を使うのは難しいので私はスプーンとフォークを使いました。

日本で観察してわかったのは、多くの年配の人々が居ることです。逆に子供は少ないと感じました。奈良と大阪を比べると奈良は静かですが、大阪は賑やかで、多くの人が行き交っています。日本には大きなビルが立ち並び、人々はとても勤勉です。皆いつも忙しくしています。日本では時間が経つのが早く、カオハガンではゆっくりと時間が流れます。私のように言葉がうまく話せない者にとって、人々と通じ合うのは難しいです。

私は基本的な日本語しかわかりません。

日本では色々と楽しみましたが、家族に会えなくて寂しかったです。特に娘に会いたくて時々寝る前に泣いていました。家族と離れて暮らすのはとても辛いです。カオハガンに早く戻りたいです。カオハガンの生活に戻りたいです。でももう少しの辛抱です。もう少しでカオハガンに帰れます。11月19日がとても待ち遠しいです。

千代美さんは私を彼女の家でとても親切に面倒見てくれて感謝しています。

沢田歯科での私の仕事についてですが、器具の洗浄、治療のアシスト、TBIの勉強などです。日本に来て私が習った中で、最も重要なことは歯磨きの重要性です。これは私たちの健康にとって大変重要なことです。これは私がカオハガンの人々、特に子供達に教えることの出来る最も大切なことです。お母さんが子供、特に1歳までの子供の歯を寝る前に磨くことは大変重要なことで、やるべきです。私はカオハガンに帰ってから島の人々に教えたり、助けたりするためにベストを尽くします。そして子供達にはあまりキャンディやチョコレートを食べないように奨励します。何故なら虫歯の原因になるからです。

沢田先生、私の歯の治療をして頂いてありがとうございました。先生はとても親切な人です。そして、河内さん、阿部さん、義歯を作って頂いてありがとうございました。彼らもとても親切にしてくれました。そして、富子さん、ゆう子さんもとても優しくしてくれました。

がんばります。

Virginia Manilag

八尾市立特別支援学校への見学

見学目的

- カオハガン島には沢山の子供達や大人が生活しています。その人々の健康管理をしていくために、今後どのような取り組みをしていけばよいのか参考にさせて頂く。
- カオハガン島に住んでいる障害児にどのような健康の管理をすれば適切なのか、どのような訓練をすればよいのか、また配慮することがあれば参考にさせて頂く。

実地日時：2010 年 10 月 27 日

参加メンバー：Virginia、川田（JDM 会員）

学校側：教頭先生、河内先生

河内景子さん（JDM の河内理事夫人）が勤務しておられる八尾市立特別支援学校を訪問しました。

見学を終えて、Virginia の感想

私はこの学校を訪れてとても驚きました。

何故なら、カオハガン島にもこのような障害児が居ますが、私にとってこのような機会は初めてだったからです。この学校で皆さんを見た時、とても心が痛みました。彼らはとてもかわいそうです。そして私自身が普通に生まれてきたことにとても幸せを感じました。しかし、彼らは不運にも障害を持って生まれてきました。それはとても悲しいことだと思います。しかし、それは彼らのせいではありません。神様が決めたことなのです。

彼らがそんな状態であっても、私達は彼らに普通の人々と同じように公平に接するべきです。

彼らは自分達のしたいことを自分でできないので、私達は愛と思いやりを持って接しなければならないと思います。

私は助けになりたい、特に私の島の Amanti を助けたいです。彼は自分で何もできません。私は彼が筋肉をストレッチするための簡単な運動をするのを助けるために全力を尽くしたいです。何故なら彼は自分でできないのです。そして、そのような障害を持った状態で、毎日の運動は彼らの健康にとって、とても大切なことです。

河内さんは、このような障害児を助ける仕事をこなしていけるなんて、とても強い人だと思いました。また、大変我慢強いです。彼女の仕事はとても大変だと思いますが、それをこなしていく彼女は偉大な女性で、大変優しい心の持ち主です。忍耐はとても大切なことです。

八尾市立特別支援学校のスタッフの方の親切なおもてなしに心の底から感謝します。

ガンバリマス！！

Virginia A. Manilag



左から河内さん、教頭先生、川田さん、Virginia

寄付活動

八尾ロータリークラブ、大阪船場ロータリークラブから寄付を頂き、ヴァヌアツの子供達へ贈呈しました。
寄付品の内容は、歯ブラシ、ノート、サッカーボール、バレーボール、文房具、古着、口腔衛生啓蒙ポスター等です。



Dr. SAWADA at Lenakel Primary School, Tanna March, 2010



OPENING PROGRAM TO

Official Handing Over of School Materials

Date: 12th July 2010

Time: 9:00

Venue: WHO Conference Room

*Japan
Dental
Mission*



Ministry of Health

OFFICIAL HANDING OVER 12th July 2010 at WHO conference

Master of Ceremonies: Jean Jaques Rory

-Welcome : Jean Jaques Rory

-Opening Remarks: Dr. Sawada
Japan Dental Mission
Representative of OSAKA SEMBA Rotary club

Mr. Kobayashi
Representative of YAO Rotary club

Mr Mark P Bebe
Director General

Hon. Moses Kahu
Minister of Health

Prayer of Dedication: Joe Kalo
Reproductive Health Unit

-Refreshment

Mr. / Mrs. / Miss.

*You are cordially invited to attend the
official Handing Over program of
school materials.*

*This official program is scheduled on
12th July 2010, 9:00 at the WHO
conference room.*

*We are looking forward to meeting
you.*



Len Kalo
Director of Public Health

八尾ロータリークラブからの活動参加者の感想文

沢田先生の 27 年間に渡る実績は多大であり、大きな信頼と友情を築いておられることには、非常に感銘を受けました。ジャパンデンタルミッションのメンバー全員が奉仕の精神で、献身的に活動されているのが印象的でした。メンバーの中には、この活動に年収の 20%～40%も費やして参加している方も沢山居られ、その方々の人類愛には大きく心を打たれました。

八尾ロータリークラブは、識字率の向上を目指して訪問しましたが、ドネーションを受ける子供達の多くが英語かフランス語で授業を受けており、それなりの学力があると感じました。

学校へ来れない子供達へのドネーションの方法など、今後、検討すべき課題であると思います。

今回の活動を通じて、色々なことを勉強させていただきましたが、奉仕活動の難しさも実感しました。

必要なものを必要な人に、奉仕することは容易い様で、難しいと思いました。

八尾ロータリークラブ 笠井 実



国内活動

2010年

4月2日（金）

国際ソロプチミスト大阪 梅田で講演

『南太平洋における医療奉仕活動について』

ヴァヌアツ・タンナ島・レナケル病院母子医療センターの運営経過報告

4月18日（水）

大阪産業創造会館にて歯科衛生士のスタディグループ 「プルミエラムール」 主催の講演会で講演。まず沢田代表が『南太平洋における医療奉仕活動について』講演し、その後、会員の垣内さんがカオハガンでの体験談を発表



6月16日（水）

八尾市立南山本小学校で道徳授業担当

5年生3クラスに『ボランティア活動について』

10月20日（水）

八尾市立南山本小学校で道徳授業担当

5年生3クラスに『ボランティア活動について』

10月27日（水）

大阪市立開平小学校（中央区北浜）で道徳授業担当

5年生を対象に『ボランティア活動について』

12月3日（金）

八尾東RC 八尾西武百貨店 卓話

『南太平洋における医療奉仕活動・青少年育成』

12月22日（水）

岡山で講演 異業種会主催

『南太平洋における医療奉仕活動・青少年育成』

2011年

1月26日（水）

八尾市立南山本小学校で道徳授業担当

5年生3クラスに『ボランティア活動について』

昨年度は、エスプリットサント島にて、歯科に関する啓発活動をパソコンを使用して行った。2回に分けて、講義？的な形式で、JICAの國和さんの献身的な通訳のもと、約3時間ずつ話させてもらった。いつも感じることだが、聴衆としての彼等は、思いのほか積極的で、必ずと言っていい程質問がたくさんある。ある程度の医学的知識は持ち合わせていても、歯科的情報や知識がほとんどない彼等にとって、口腔内というのは不思議な器官のようだ。今年度は7月に昨年と同じような内容で、場所をマレクラ島に移して行う予定をしているが、その特殊性を理解してもらえるよう、少しでも解り易く、また簡潔な内容を心掛けたいと思う。また今年からは、歯と全身疾患についても少し述べてみようと考えている。どうしても「歯では死なない」という思いがあるので、歯と咀嚼、咀嚼と痴ほう及び転倒、プラークコントロールと誤嚥性肺炎等の内容も話す予定をしている。

学術を担当する者として、報告書に何がしかの記述を書かねばならないのは、至極当然のことである。そこで、そもそも”学術”とは何ぞや？と思って、その言葉の意味を調べてみた。学術とは、「専門的な研究として行われる学問。原理と応用、技術を含めていう」或は「学問。専門性の高いものをいう」らしい。そう言われてしまうと、これまでのヴァヌアツでの活動は、おおよそ”学術”とは程遠いということが解ってきた。では「何をして学術と言わしめる」のか、答はいつになるか解らないが、それをこれから少しずつ考えてみようと思う。



ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿 革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動が続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらう事になり、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
・ ・	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

・ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

・フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

・絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い、文化の交流を図っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

3. 生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

・文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えております。

・運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4. 青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うためのキッカケ作りをするお手伝いをしています。

協力者名簿

- ・ (株)アド・ダイセン
- ・ アベ・ラベリング(株)
- ・ オーエム歯材(株)
- ・ 大阪歯科大学 口腔衛生科
- ・ 大阪市立開平小学校
- ・ 大阪市立昭和中学校
- ・ 大阪市立高津小学校
- ・ 大阪市立玉造小学校
- ・ 大阪市立中央小学校
- ・ 大阪市立中大江小学校
- ・ 大阪市立南大江小学校
- ・ 大阪市立南小学校
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ 大阪南太平洋協会
- ・ 大阪府歯科医師会
- ・ 尾崎歯材(株)
- ・ 川西市歯科医師会
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ 清原(株)
- ・ 共栄社化学(株)
- ・ クリエイト(株)
- ・ グラクソ・スミスクライン(株)
- ・ 国際ソプロチミスト大阪-梅田
- ・ コクヨ S&T(株)
- ・ サクラクレパス(株)
- ・ 沢井製薬(株)
- ・ 笹野電線(株)
- ・ 澤田歯科
- ・ サンスター(株)
- ・ (株)システムつう
- ・ (株)ジャックス
- ・ シンク(株)
- ・ 甚田会計事務所
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ スモカ歯磨(株)
- ・ セイコーエプソン(株)労働組合
- ・ セキセイ(株)
- ・ 全日本ブラシ工業協同組合
- ・ 大日本除虫菊(株)
- ・ 大平工業(株)
- ・ 太洋旅行(株)
- ・ 嶽北歯科
- ・ タナベスポーツ(株)
- ・ 株式会社ツサカ
- ・ つるや(株)
- ・ トキワ(株)
- ・ 有限会社トリビ
- ・ ナカガワ(株)
- ・ 南総工業(株)
- ・ 西澤歯科医院
- ・ ニッタハウス(株)
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 根来(株)
- ・ 白水貿易(株)
- ・ ハグルマ封筒(株)
- ・ (有)ハマダデンタルサプライ
- ・ (株)林
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ 不二印刷(株)
- ・ ヘリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
- ・ 蛍印刷(株)
- ・ モリタ(株)
- ・ 八尾市立西山本小学校
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ 八千代オート(株)
- ・ 山貴産業(株)
- ・ ユー・エフ・オー(株)
- ・ 陽春園(株)
- ・ 吉竹歯科医院
- ・ DENTRADE
- ・ Greenpath Corporation
- ・ JICAヴァヌアツ支所
- ・ NPOセンター
- ・ TKX(株)
- ・ UHA味覚糖(株)

本年度寄付を頂いた皆様

50音順

- | | | | |
|---------------|-----------------|------------------|-----------------|
| ・アベ・ラベリング(株) | ・河崎 津紀 | ・沢井 武清 | ・トキワ(株) |
| ・一柳 完治 | ・川田 昌美 | ・澤田歯科 | ・中西 徹 |
| ・伊藤 孝治 | ・北田 全基 | ・沢田 宗久 | ・ナカガワ(株) |
| ・今西 敦之 | ・木下 マスエ | ・(株)ジャックス | ・中野 栄津子 |
| ・大阪梅田ロータリークラブ | ・(株)共和コーポレーション | ・(株)昭和 | ・西澤 歯科 |
| ・大阪船場ロータリークラブ | ・クリエイト(株) | ・甚田会計事務所 | ・白水貿易(株) |
| ・大徳 豊治 | ・国際ソプロチミスト大阪-梅田 | ・セイコーエプソン(株)労働組合 | ・ハグルマ封筒(株) |
| ・斧原 周子 | ・小林 成禎 | ・大日本除虫菊(株) | ・橋本 雄司 |
| ・尾崎歯材(株) | ・サクラクレパス(株) | ・武内 仕女子 | ・羽原歯科 |
| ・オーエム歯材(株) | ・佐々木 孝子 | ・竹内 智子 | ・(有)ハマダデンタルサプライ |
| ・笠井 実 | ・佐々木信子 | ・武安 俊子 | ・樋口 淳一 |
| ・片岡 清夫 | ・笹野 順一 | ・タナベスポーツ(株) | ・藤井 ツギ |
| ・金本 裕光 | ・沢井製薬(株) | ・津坂 譲二 | ・藤本 茂子 |
| ・宮崎 キミ子 | ・森本 ふみ子 | ・八千代電設工業(株) | ・山岡 惣一 |
| ・森本正二 | ・八尾東ロータリークラブ | ・矢野 恭子 | ・吉岡 てる子 |
| ・モリタ(株) | ・八尾ロータリークラブ | ・山村 瑛子 | ・UHA味覚糖(株) |

東日本大震災に対する義援金についての御願い

日頃よりJDMの活動にご協力いただきありがとうございます。

今回の東日本大震災に対してJDMとしてどのような支援ができるか模索してまいりましたが、被災地での歯科診療には自己でそろえる機材、電気が必要なため、現地での歯科診療は困難であると思われます。また、宮城県の窓口等に問い合わせたところ、歯ブラシなどの口腔ケアに必要な物資は全国から届いており、飽和状態であるとのことでした。

今、我々にできることとして、被災地の皆様のために、義援金の募集を行いたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

JDM会員の皆様の医院、事業所に募金箱を設置していただき、集めた募金を新規に開設した口座に振り込んでいただきたいと思います。

また個人で寄付を頂ける方は直接、専用口座にお振込を御願いします。

集めた義援金は日本歯科医師会を通じて復興に活用する予定です。

今回は通常の口座とは別に開設しておりますので、お間違いのないように御願いします。

皆様のご協力を心より御願い申し上げます。

締切日:2011年6月30日

義援金専用口座

銀行名:三菱東京UFJ銀行 心斎橋支店(店番号 031)

口座名義:トクヒ)ジャパンデンタルミッションギエンキングチ

口座番号:0113997

【募金箱に掲げる文書案】

今回の震災の連日の報道に、さぞ皆様お心を痛めていらっしゃるかと思います。

私たちJDMも、胸が張り裂けそうな思いです。

歯科ボランティア団体であるJDMとしては、被災地での歯科医療活動を行うのがあるべき姿であると思いますが、現状では機材、電気の確保が極めて困難です。

今、我々にできることとして被災地の皆様のために、義援金の募集を始めましたので、ご協力をお願いいたします。

集まった義援金は、日本歯科医師会を通じ、全額、被災者救済のための救援活動及び復興支援活動等資金として活用させていただきます。

ご賛同いただけるお客様は、募金をお願いします。

以上ご協力よろしく御願いします。

2011年度海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっておりますが、どなたでも参加できます！現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、ホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~jdm> をご覧下さい。

日 程

ヴァヌアツ共和国		
チーム名	日 程	締切日
7月チーム（タンナ島）	2011年 7月 9日～ 7月 18日	2011年 6月11日
7月レクチャー（マレクラ島）	2011年 7月 11日～7月 12日	募集なし

フィリピン共和国		
チーム名	日 程	締切日
11月チーム	2011年11月18日～11月23日	2011年10月18日
2月チーム	2012年 2月 7日～ 2月 12日	2011年12月27日

募集人員

歯科医師	約3名前後
歯科技工士	約3名前後
歯科衛生士	約3名前後
ボランティア	約3名前後

参加費用参考

	ヴァヌアツ共和国	フィリピン共和国
科 目	金 額	金 額
航空運賃 ＊1	約20万円前後	約8万円前後
滞 在 費	なし	なし
海 外 傷 害 旅 行 保 険 代	約1万円(任意)	約7千円(任意)
ユニフォーム代 ＊2	3千円	3千円
合 計	約 21 万円前後	約 9 万円前後

＊1:航空運賃は時期により変動します

＊2:持っていない方のみ

理事紹介



代表理事 沢田 宗久
沢田歯科
院長 歯科医師



副代表理事 栗山 雅行
バリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
代表取締役



理 事 吉竹 弘行
吉竹歯科
院長 歯科医師



理 事 河内 光明
沢田歯科
歯科技工士



理 事 田中 良明
上がり口歯科医院
歯科技工士



理 事 小西 あゆみ
大谷歯科
歯科衛生士



理 事 森田 朋美
広川歯科医院
歯科衛生士



理 事 上崎 秀美
上崎歯科
院長 歯科医師



理 事 吉井 照子
日本放送協会
大阪放送局



理 事 富田 真仁
富田まひと歯科
院長 歯科医師





2011年 6月 15日 発行

発行者 NPO法人ジャパン デンタル ミッション
〒542-0085

大阪府中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 沢田歯科内

TEL:06-6252-0118 FAX:06-6641-5572

URL:<http://www5.ocn.ne.jp/~jdm/index.html>

E-mail:jdm@themis.ocn.ne.jp

* 本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを強く禁じます。